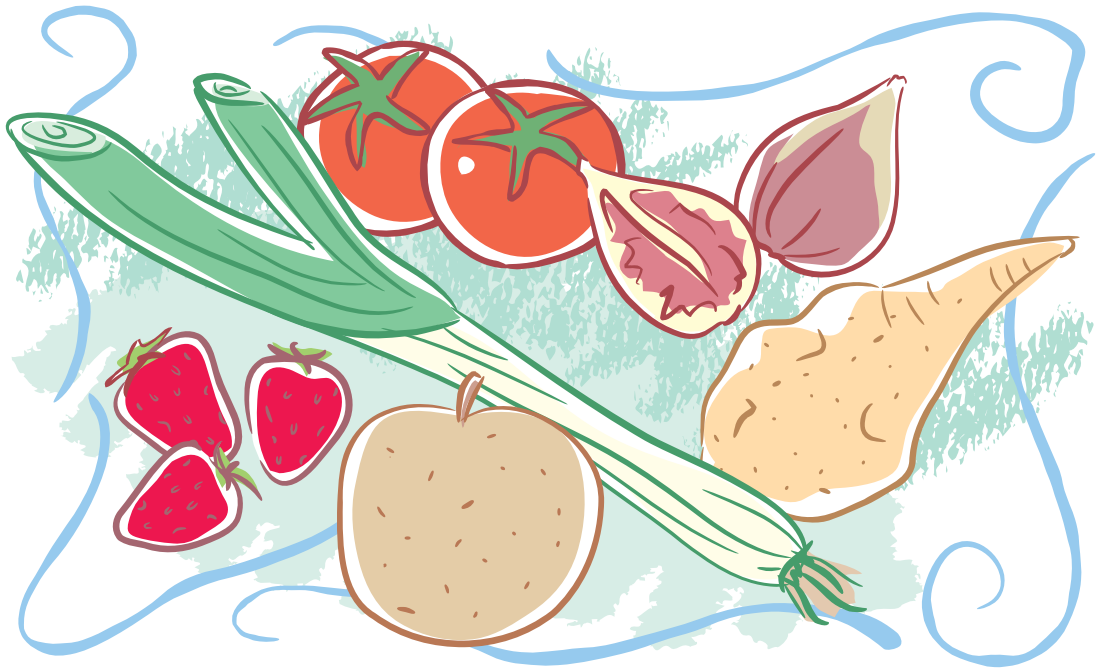


# 第二期新農業生産振興プラン

—『地域と響きあい、輝き続ける、いわきの農業』—



いわき市

# はじめに



いわき市長  
櫛田 一 男

いわき市は、これまで本市独自の農業生産振興策として、平成7年度からの「アグリプラン21」、平成13年度からの「新農業生産振興プラン」に基づいて、各種の推進事業を展開してまいりました。

しかし、現在、農業を取り巻く環境は一層厳しいものとなっており、これらの環境の変化に対応するため、現行プランにおける成果と課題の検証作業を進め、今回、新たなプランとして「第二期新農業生産振興プラン」を策定いたしました。

「第二期新農業生産振興プラン」は、生産者が誇りを持ち、いきいきと輝きながら農業に取り組める体制の推進や、地域全体で農がもたらす「豊かさ」と「やさしさ」を次世代に継承していくことを目標に、メインテーマを「地域と響きあい、輝き続ける、いわきの農業」とし、次の5つの基本方針を掲げております。

はじめに、「①多様な担い手の育成・確保」として、意欲ある農業者や女性農業者等に対し、機械・設備の導入支援を実施するほか、新規就農者や定年退職者を主としたチャレンジ農業者の育成など、総合的な就農支援に取り組んでまいります。

次に、「②生産体制の整備と販路拡大の推進」として、強い農業生産体制を確立するため、機械化や分業化による省力化、また、販路拡大については、農産物のブランド化を推進するとともに、各種イベントや農業情報誌等を通じたPR活動などを実施してまいります。

続いて「③農業情報化の推進と顔が見える農業の展開」として、いわき市農業情報センターHPのさらなる充実を図り、パソコン講習会等の開催と年間を通じたサポート体制の構築を図り、農業者自らが開設するHPが拡大されるよう支援を行い、顔が見える生きた農業情報を積極的に発信するなど、情報化の推進に努めてまいります。

続いて「④交流型農業の推進と農村地域の活性化」については、農村の地域資源を活用した交流型農業体験等の開催、また、農業・農村の持つ役割の重要性について、消費者に認識していただけるよう、食農教育の一層の充実を図ることとしております。

最後に、「⑤環境にやさしい農業の推進」として、耕種農家と畜産農家の連携による、有機質資源の循環を推進するとともに、エコファーマーなどの環境に配慮した農業実践者への支援強化などを積極的に実施し、環境にやさしい農業の推進に努めてまいります。

以上のとおり、この計画に基づき、生産から販売、さらには消費まで、農業と人とのかかわりを基調として、各般の施策を積極的に展開してまいりますので、生産者をはじめ、消費者、流通関係者、関係機関・団体の一層の御協力をお願い申し上げます。

平成19年3月

# 目 次

第1章 計画の位置づけ .....	1
第2章 データで見るいわきの農業	
1 農業粗産出額 .....	2
2 農家戸数の推移 .....	3
3 福島県から見たいわきの農業 .....	4
4 いわき市中央卸売市場におけるいわきの農産物の占有率 .....	5
5 いわき市の食料自給率 .....	6
第3章 新農業生産振興プラン推進事業の総括 .....	7～12
第4章 農業生産振興の方針	
1 メインテーマ .....	13
2 施策体系 .....	14～15
(1)多様な担い手の育成・確保 .....	16
(2)生産体制の整備と販路拡大の推進 .....	17
(3)農業情報化の推進と顔の見える農業の展開 .....	18
(4)交流型農業の推進と農村地域の活性化 .....	19
(5)環境にやさしい農業の推進 .....	20
3 事業計画 .....	21～22
4 推進体制 .....	23
5 振興作目 .....	24
6 数値目標 .....	25
参考資料（用語の解説） .....	26～27

# 第1章

## 計画の位置づけ

### 1. 計画作成の趣旨

本市独自の農業生産振興策である「新農業生産振興プラン」は、平成13年度から18年度までの6年間の事業期間として、「地域がキラメクいわきの農業」をメインテーマに、生産から消費までの総合的な各種対策事業を展開し、一定の成果を挙げたものと考えております。

しかし、担い手の減少や高齢化の進行による生産力の低下、輸入農産物の増加による農産物の価格低迷、さらにはBSEや鳥インフルエンザ問題を契機とする「食の安全・安心」の確立が強く求められるなど、農業を取り巻く環境は一層厳しいものとなっております。

これらを踏まえ、新農業生産振興プラン推進事業の実績や課題を検証し、継承・発展させた形で、「第二期新農業生産振興プラン」を作成いたしました。

また、第二期新農業生産振興プランは、「いわき市農業・農村基本計画」の生産振興部門の基本計画として、また国が定める「食料・農業・農村基本計画」などの上位計画に即した、本市独自の農業生産振興策といたします。

### 2. 計画の期間

平成19年度から平成24年度までの6年間の計画期間とします。

また、計画を前期3年、後期3年に分け、前期終了時に計画の点検を行い、必要な見直しを行うこととします。

### 3. 計画の構成

#### (1) データで見るいわきの農業

農業粗産出額、農家戸数等をデータにて表します。

#### (2) 新農業生産振興プラン推進事業の総括

新農業生産振興プラン推進事業の実績・成果・課題・展望をまとめます。

#### (3) 農業生産振興の方針

計画の基本方針、施策体系、振興作目、推進体制、数値目標等を示します。

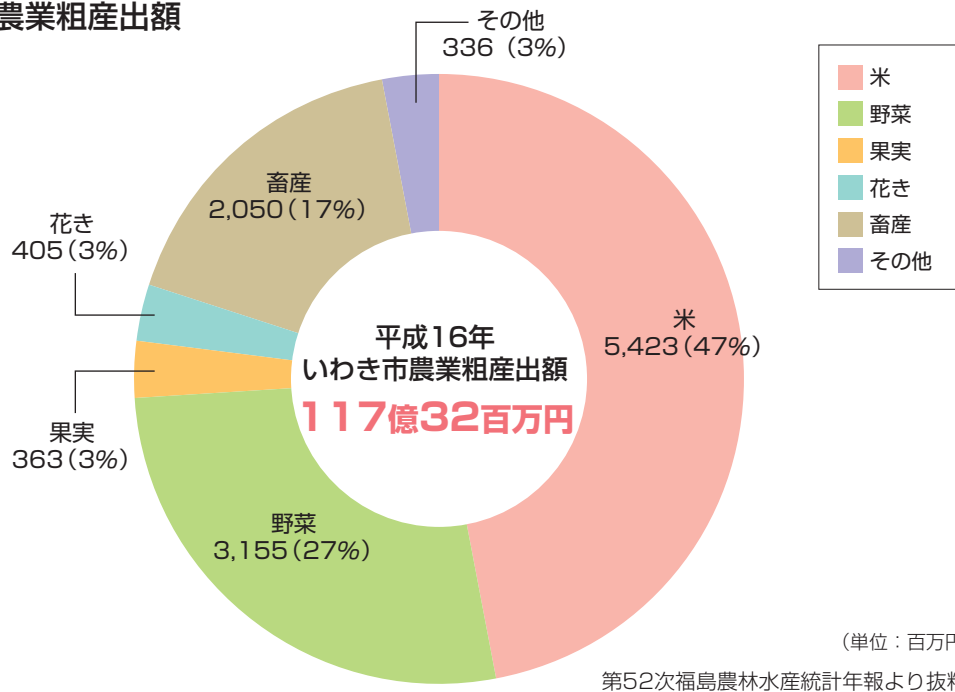
## 第2章

# データで見るいわきの農業

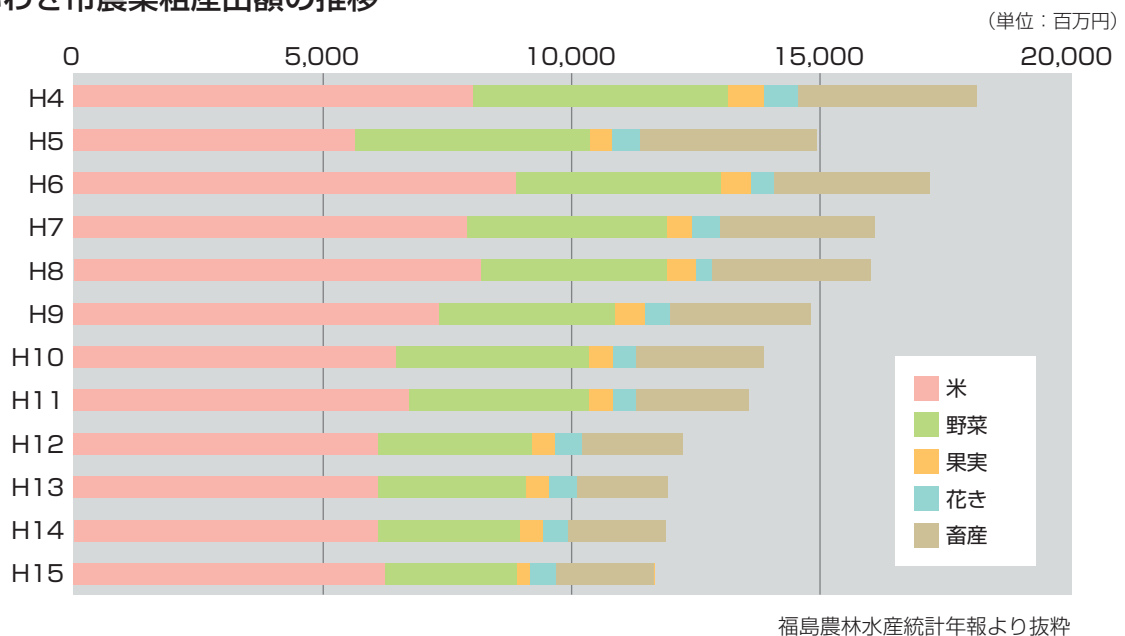
### 1. 農業粗産出額

平成16年の農業粗産出額は、117億32百万円で、うち水稲が47%を占め、野菜が27%、果実が3%、花きが3%となっており、水稲への依存度が高い農業となっております。

#### いわき市農業粗産出額



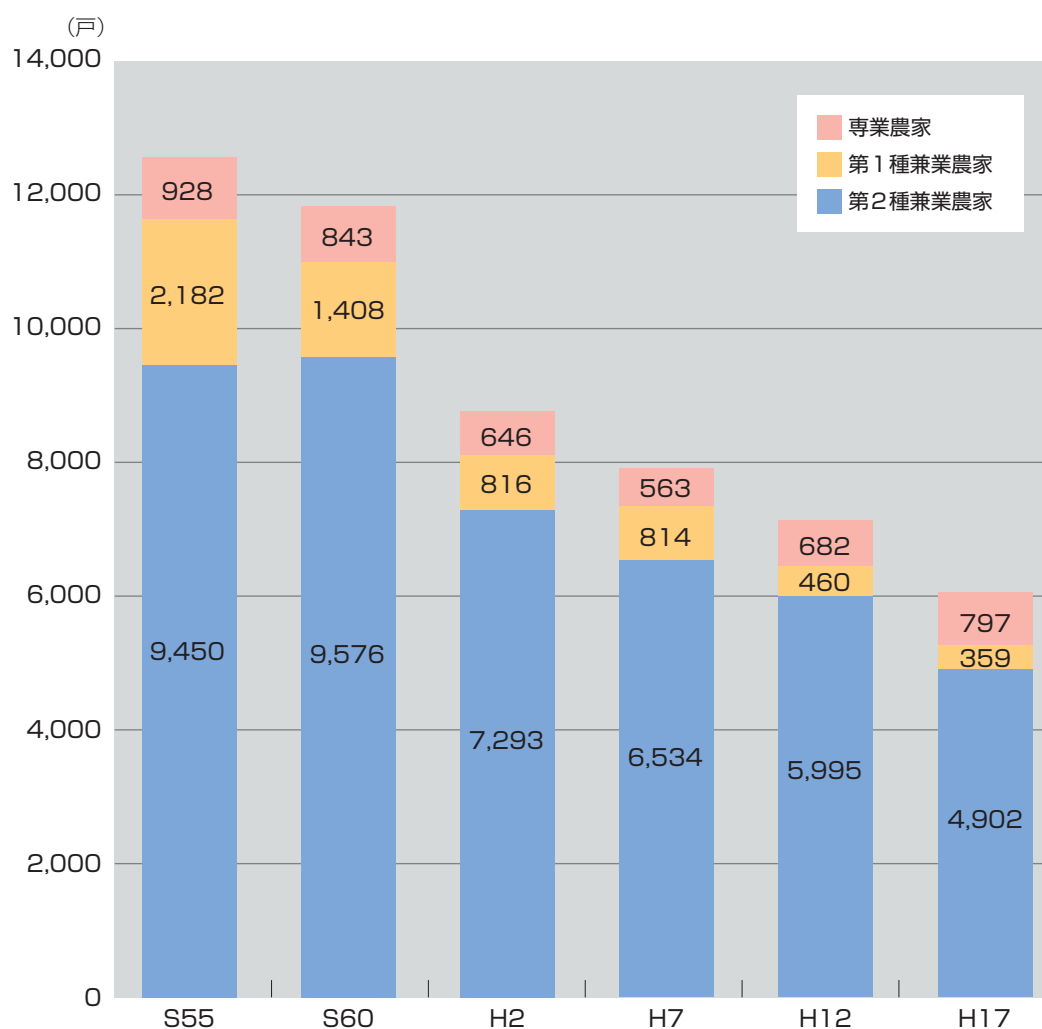
#### いわき市農業粗産出額の推移



## 2. 農家戸数の推移

平成17年の農家戸数は、6,058戸で、平成12年と比較して1,079戸減少しており、販売農家のうち、専業農家はやや増加していますが、第1種・第2種兼業農家は、年々減少傾向にあります。

農家戸数の推移（平成17年農林業センサス）



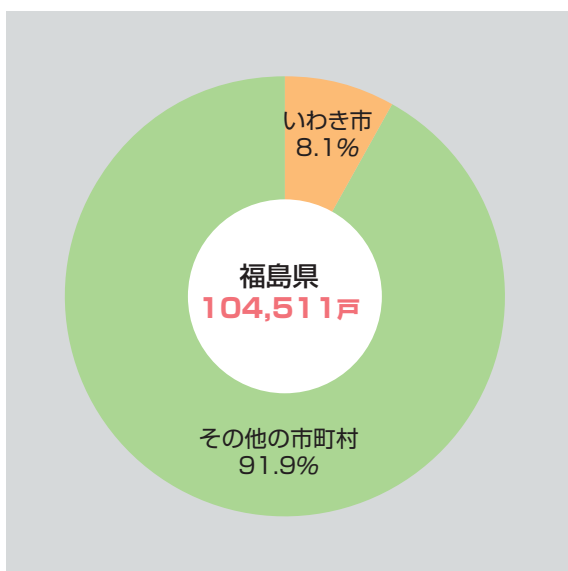
※専業農家：世帯員のうちに兼業従事者が一人もない農家をいう。

※第1種兼業農家：世帯員のうちに兼業従事者が一人以上いる農家をいい、自営農業を主とする農家をいう。

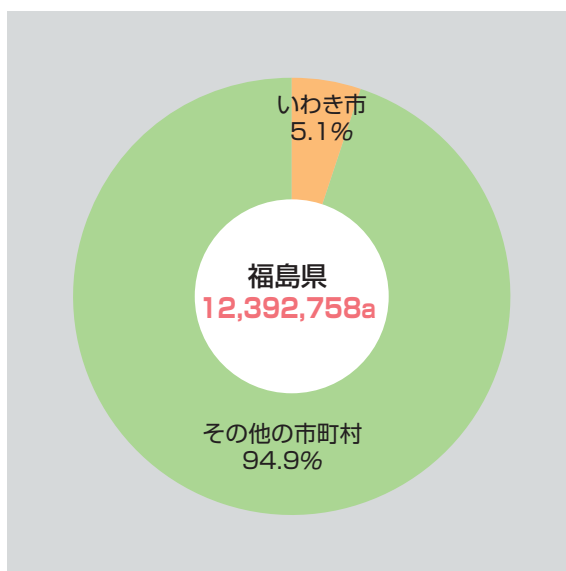
※第2種兼業農家：世帯員のうちに兼業従事者が一人以上いる農家をいい、自営農業を従とする農家をいう。

### 3. 福島県から見たいわきの農業

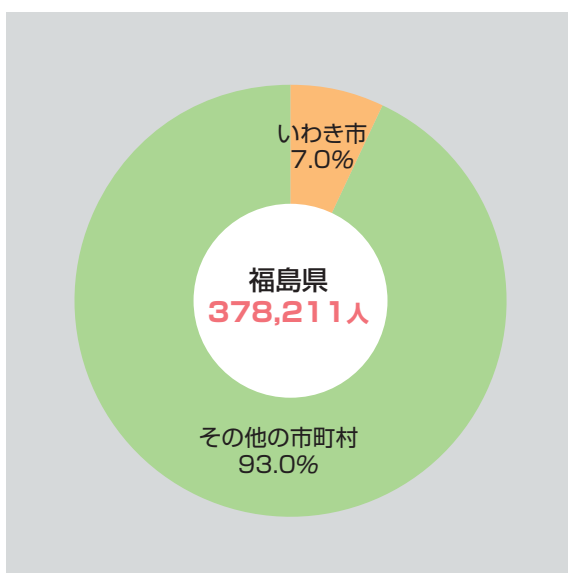
農家数（平成17年農林業センサス）



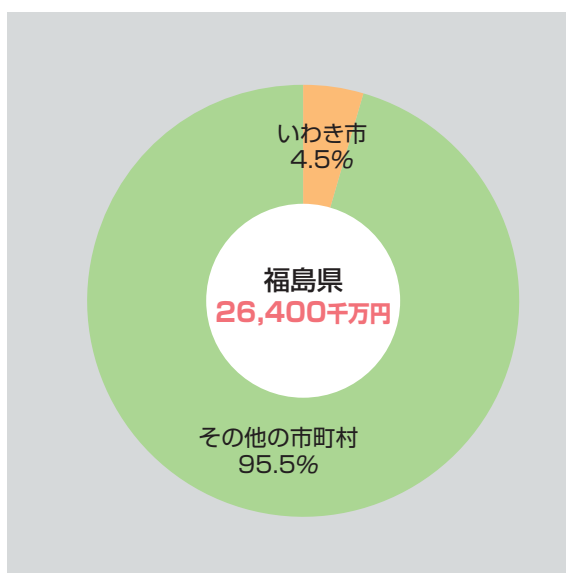
経営耕地面積（平成17年農林業センサス）



農家人口（平成17年農林業センサス）



平成16年農業粗産出額（福島県農林水産統計年報）



※農家：耕種、畜産（養禽及び養蜂も含む）または養蚕の事業をいう。

※経営耕地：農家が所有する耕地（田、畑、樹園地）をいう。これは自己所有土地と借入耕地に区分され、一時的休閑地（不作付地）は含むが、貸付耕地や期間借地及び耕作放棄地は除かれる。

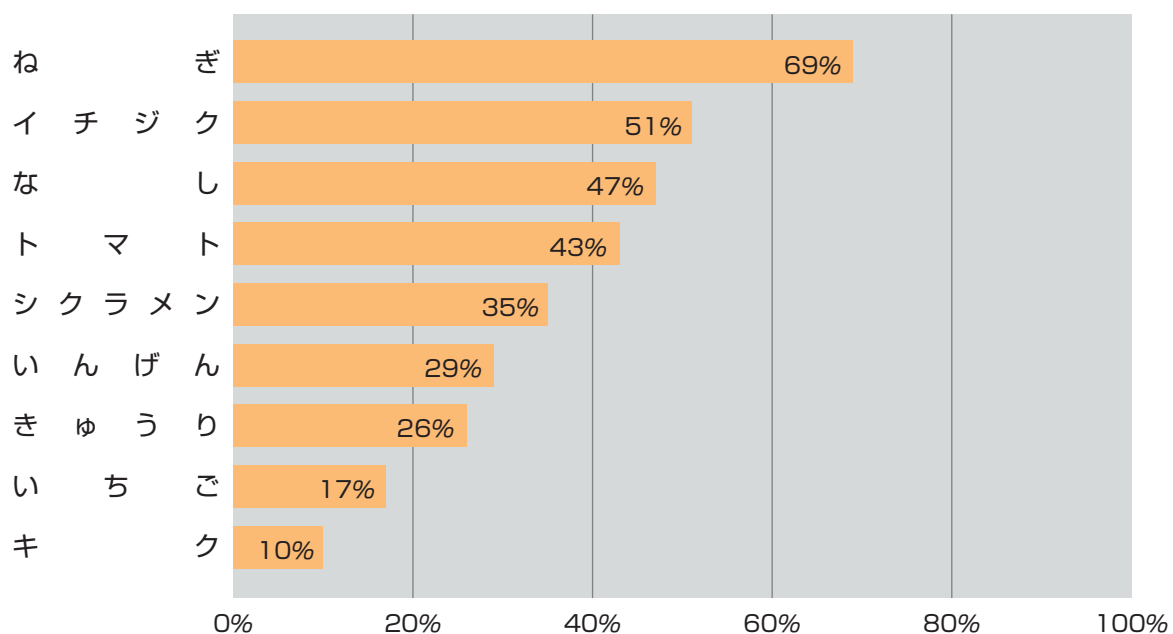
※農業粗産出額：農産物別生産数量に農産物別農家庭先販売価格を乗じて算出した額

#### 4. いわき市中央卸売市場におけるいわきの農産物の占有率

いわき産の農産物が地元市場に占める割合は、平成17年度では、ねぎが69%、イチジクが51%、梨が47%、トマトが43%、シクラメンが35%、いんげんが29%、きゅうりが26%、いちごが17%、キクが10%となっています。

	取扱量	左記のうち市内産	占有率
ねぎ	1,527 t	1,054 t	69%
イチジク	164 t	84 t	51%
なし	2,503 t	1,198 t	47%
トマト	2,763 t	1,204 t	43%
シクラメン	27,629鉢	9,803鉢	35%
いんげん	172 t	50 t	29%
きゅうり	2,008 t	538 t	26%
いちご	1,243 t	214 t	17%
キク	6,870千本	723千本	10%

#### いわきの農産物の占有率

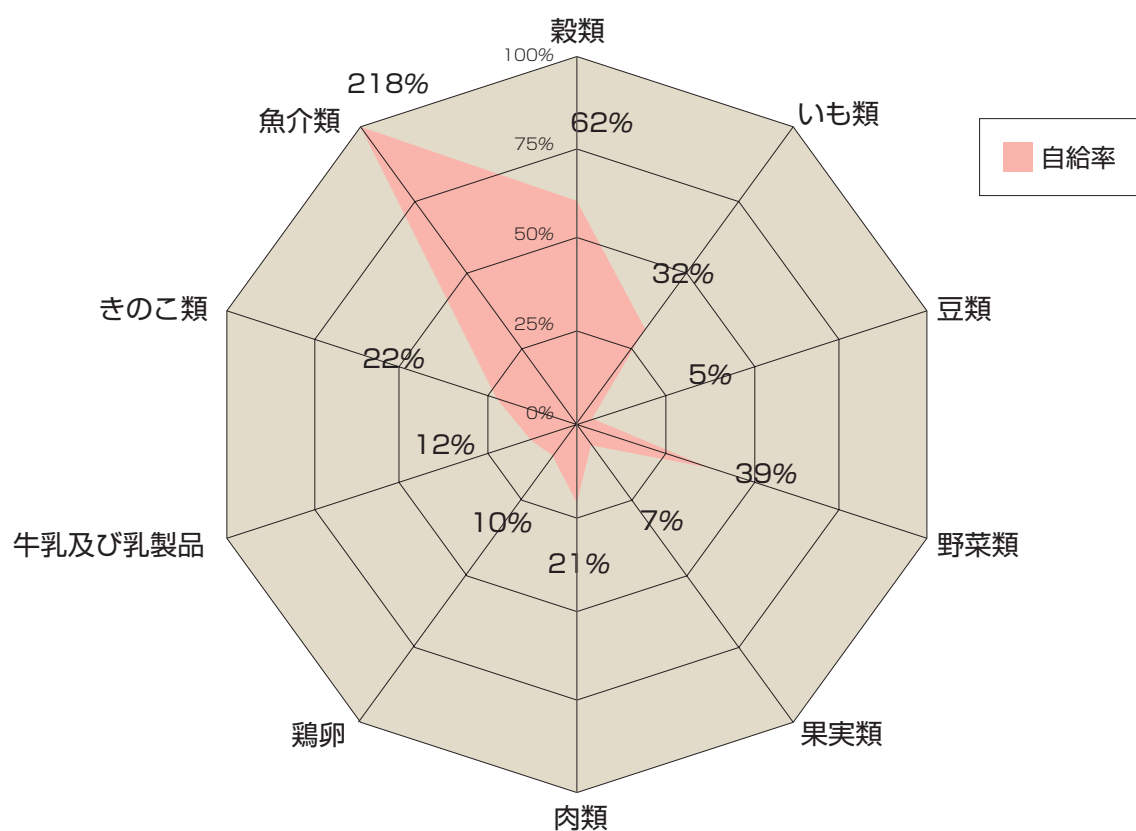


市場年報(平成17年度)より

## 5. いわき市の食料自給率

いわき市の食料自給率は、米が100%（小麦などを含めた穀類全体では62%）、いも類が32%、豆類が5%、野菜類が39%、果実類が7%で全体の食料自給率（カロリーベース）は35%となっています。

### いわき市の食料自給率（平成16年度）



(東北農政局いわき統計・情報センター)

## 第3章

# 新農業生産振興プラン推進事業の総括

平成13年度から平成18年度までの6年間を事業期間として各種事業を展開してきた、新農業生産振興プラン推進事業の実績と成果、課題と展望の主なものは、次のようにまとめることができます。

### (1) 多様な担い手の育成・確保

#### ①実績・成果

補助事業の活用による機械・設備の導入や農業簿記講座の開催など、意欲ある農業者への重点的な支援と経営能力の高い農業者の育成に向けた意識付けを図ることができました。

また、高齢者・女性農業者の活躍の場である直売所の設置を支援したことにより、市内直売所数が大幅に増えたことなどが成果として挙げられます。

#### ②課題・展望

新規就農を希望する方への情報発信として、いわき市農業情報センターHPにて情報の提供をしてきましたが、今後は就農前から就農後までの一貫した育成とサポートシステムの構築が必要であると考えます。



▲「産直」夕市まつり



▲まちなか青空市

## (2) 効率的で生産性の高い農業の確立

### ①実績・成果

点滴栽培システムや優良種苗等の導入支援を通じて、機械化や分業化の推進を図り、産地の維持・発展や生産体制の整備促進に寄与しました。

また、関係機関・団体と連携を図りながら、イチジク等の栽培実証ほを設置し、新技術の導入に努めました。

### ②課題・展望

今後ますます作業の機械化・省力化の必要性が高くなることから、対象作物を絞り、重点的な支援を行い、農産物の産地化・ブランド化を目指していくべきであると考えます。



▲トマト点滴栽培システムの導入



▲新品種苗木の導入（日本なし・涼豊）



▲イチジク



▲とっくり芋

### (3) マーケティングの強化と情報化の推進

#### ①実績・成果

各種イベントの開催やパンフレットの配布等を実施し、いわきの農産物のPRや消費者への地産地消の意識付けが図られました。

また、いわき市農業情報センターHPの開設や農業情報誌の発行により、消費者・生産者双方の顔が見える農業の構築に一定の成果を得ました。

#### ①課題・展望

農業者を対象にパソコン講座を開催し、農業情報化に対する意識付けが図られましたが、さらなる情報技術の向上のため、年間を通じたサポート体制の充実が必要と考えます。

また、いわき市農業情報センターHPの一層の充実と強化も必要であります。



▲パソコン講座



▲農林水産祭（東京都内）



▲農業情報誌



▲PR冊子・料理レシピ集

#### (4) 消費者の共生確立と農村地域の活性化

##### ①実績・成果

いわき農遊ツアーの実施やアグリトークの開催により、生産者と消費者がお互いの考えを知り、連携強化を推進することができました。

また、料理教室の開催や農業体験教室の実施をはじめ、レシピ集の配布などにより、多くの消費者に「食と農」の大切さを理解していただいたものと考えます。

また、三和地区の小・中学校に月1回程度の地元食材を提供することにより、食農教育への理解を深めることができました。

##### ②課題・展望

生産者と消費者との連携を深めるためにも、イベントのみでなく、継続的な関係構築が図れる仕組みづくりが必要であります。

また、食農教育や地産地消を推進する観点から、学校給食をはじめ、公共施設での地元食材の使用を推進していきたいと考えます。



▲農遊ツアー



▲食農カルタ交流会



▲伝統食教室



▲親子で作る料理教室

## (5) 環境にやさしい農業の推進

### ①実績・成果

エコファーマー取得のための研修会を開催するなどの支援を実施し、認証取得への効果を得ました。

また、エコファーマー取得の啓発のため、生産者向けパンフレットの作成と配布を行い、認証制度に対する関心を高めることができたと考えます。

さらに、農業者にプラスチックの適正処理を推進するため、いわき地区農業用使用済プラスチックリサイクル協議会への支援等を通じて、リサイクルの普及・啓発に努め、適正処理割合に一定の成果を得ました。

### ②課題・展望

耕種農家と畜産農家の連携を強化し、循環型農業のシステム構築を図るため、研修会や会議等の開催が必要と考えます。

また、エコファーマーへの支援制度や取得に向けた取り組みを構築し、環境にやさしい農業の一層の推進を図りたいと考えます。



▲エコファーマー技術研修会



▲エコファーマー技術研修会



▲エコファーマー・マーク



▲わくわくアグリ教室



▲トマト



▲いちご



▲なし



▲水耕葉ネギ



▲ねぎ



▲シクラメン

## 第4章

# 農業生産振興の方針

## 1. メインテーマ

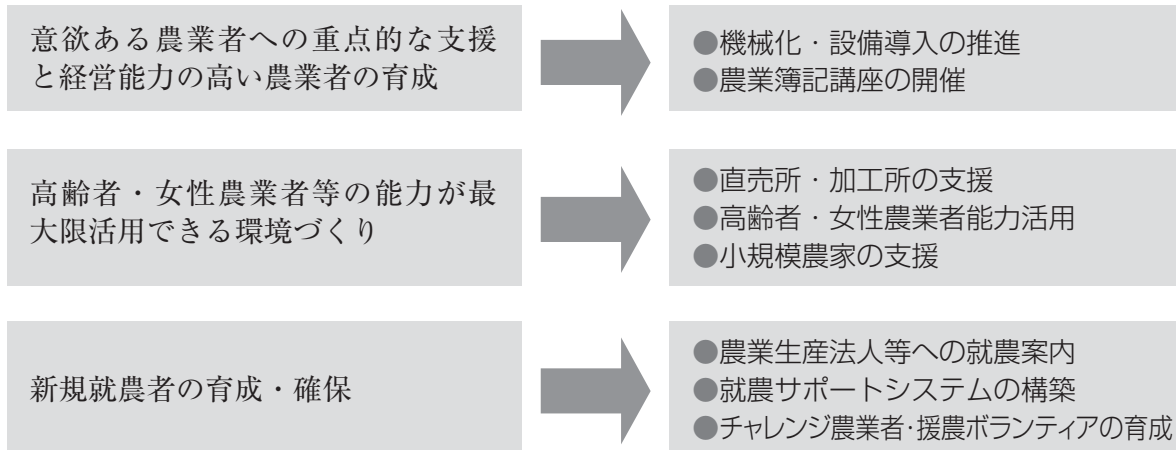
### 「地域と響きあい、輝き続ける、いわきの農業」

新農業生産振興プランでは、「地域がキラメクいわきの農業」を目指して、前期・後期の二期6年間の継続事業として、「多様な担い手の育成・確保」、「効率的で生産性の高い農業の確立」、「マーケティングの強化と情報化の推進」、「消費者との共生確立と農村地域の活性化」、「環境にやさしい農業の推進」の5つの基本方針に基づき、各種事業を展開してまいりました。

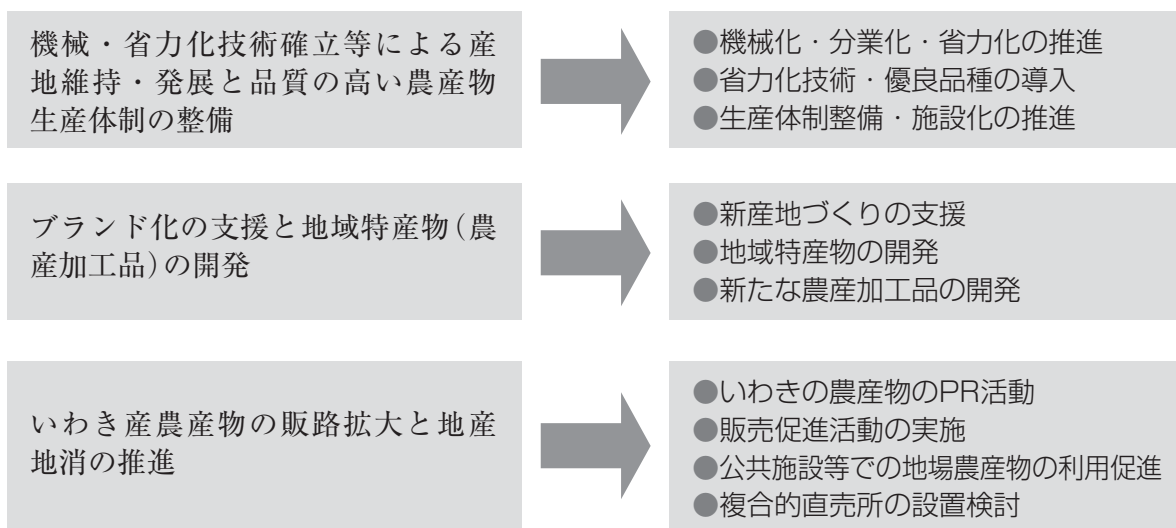
今後は新たなステップとして、生産者が誇りを持ち、いきいきと輝きながら農業に取り組める体制を推進するとともに、環境と調和した持続的な農業を地域全体で取り組み、農がもたらす「豊かさ」と「やさしさ」を次世代に継承していくことを目的に、メインテーマを「地域と響きあい、輝き続ける、いわきの農業」としました。

## 2. 施策体系

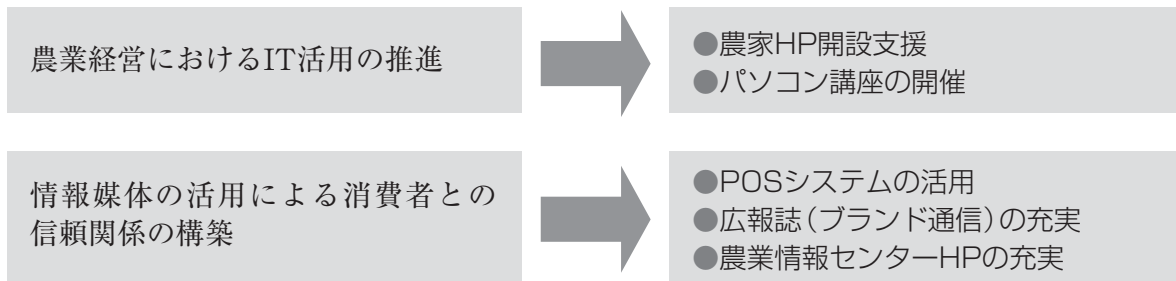
### (1) 多様な担い手の育成・確保



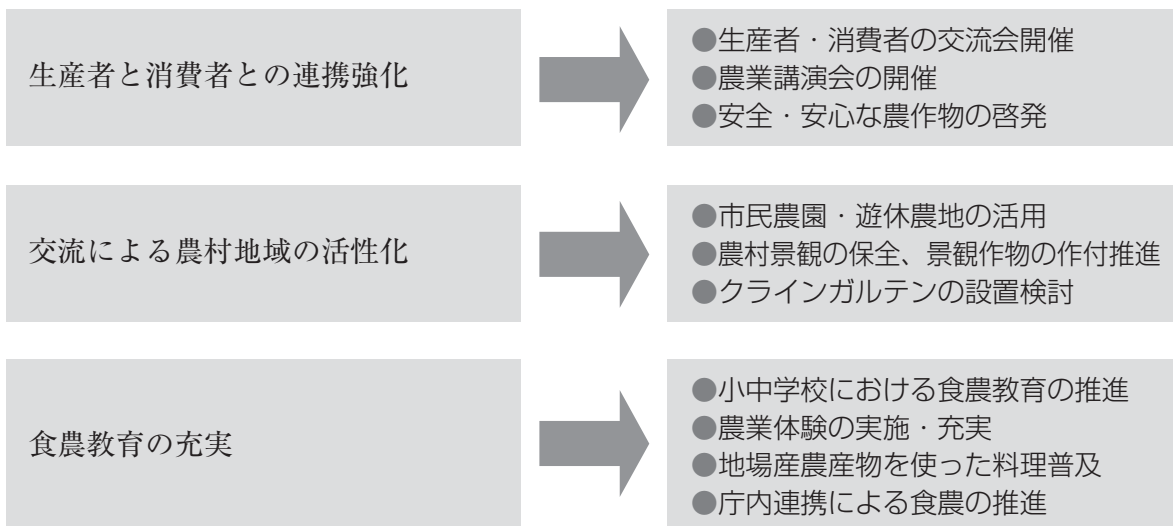
### (2) 生産体制の整備と販路拡大の推進



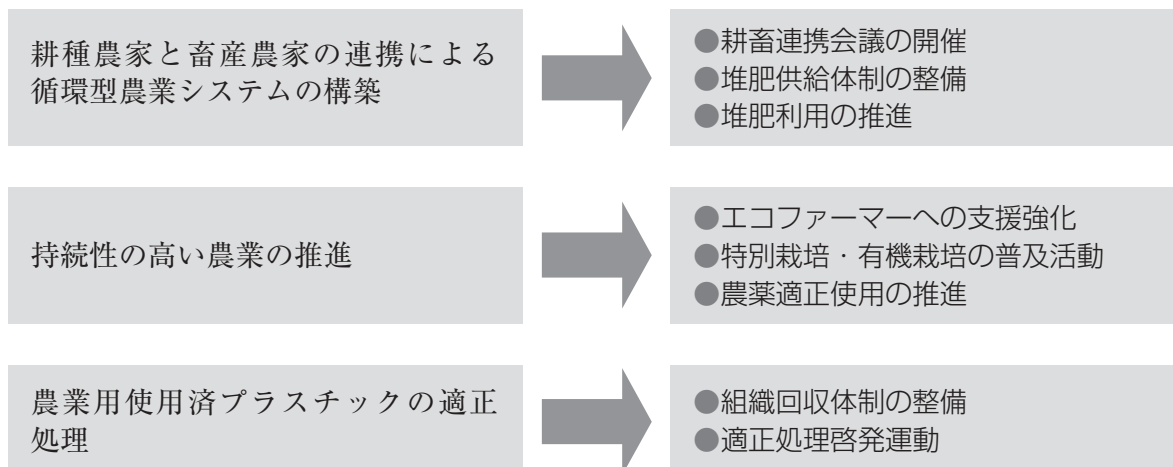
### (3) 農業情報化の推進と顔が見える農業の展開



#### (4) 交流型農業の推進と農村地域の活性化



#### (5) 環境にやさしい農業の推進



## (1) 多様な担い手の育成・確保

意欲ある農業者への支援を強化するとともに、農村で大きな役割を担っている高齢者・女性農業者の能力を最大限活用できる環境づくりを推進する。

また、新規就農者・チャレンジ農業者を育成するなど、農業生産を持続的に発展できる農業者の育成・確保を図る。

### ① 意欲ある農業者への重点的な支援と経営能力の高い農業者の育成

いわき市ふるさと農業支援センターと連携を図りながら、地域の中核的リーダーとして活躍する農業者の育成のため、農作業の機械化・設備導入の推進、農業簿記の習得などを重点的に支援する。

- 機械化・設備導入の推進
- 農業簿記講座等の開催

### ② 高齢者・女性農業者等の能力が最大限活用できる環境づくり

農産物直売所・農産物加工所の支援や研修会開催等による経営能力向上、高齢者・女性農業者の地位向上など、高齢者・女性農業者がやりがいを持てる環境づくりを推進する。

また、高齢者・女性農業者の経験・能力を最大限活用するため、特産品・加工品開発を推進する。

- 直売所、加工所の支援
- 高齢者、女性農業者能力活用
- 小規模農家の支援

### ③ 新規就農者の育成・確保

次代の農業を担う若い農業者を育成・確保するため、新規就農支援推進事業と連携を図り、新規就農希望者への就農サポートや農業生産法人等への就職案内を実施する。

また、チャレンジ農業者・援農ボランティアの育成を図るため、営農塾を開設する。

- 農業生産法人等への就職案内
- 就農サポートシステムの構築
- チャレンジ農業者、援農ボランティアの育成

※チャレンジ農業者…新たに農業を始める定年退職者等

## (2) 生産体制の整備と販路拡大の推進

これまで確立されてきた産地の維持・発展のために、機械化や分業化による省力化の推進や優良品種の導入等を実施する。

また、「いわきの農産物」をブランド化するため、地域特産物の開発や農産物を使用した加工品の開発を支援するとともに、地産地消の推進、「いわきの農産物」の販路拡大を図り、各種イベント等においてPR活動を実施する。

- ① 機械化・省力化技術確立等による産地維持・発展と品質の高い農産物生産体制の整備  
機械化や分業化による省力化や、機械の共同利用、資材の共同購入等による低コスト化を推進し、産地の維持・発展を図る。

また、高品質な農産物生産のために、優良品種・高度栽培技術の導入を支援する。

- 機械化、分業化、省力化の推進
- 省力化技術、優良品種の導入
- 生産体制の整備、施設化の推進

- ② ブランド化の支援と地域特産物（農産加工品）の開発

いわきの農産物のブランド化のため、目玉となる地域特産物（農産加工品）の開発を推進し、他産地との差別化を図る。

また、本市の温暖な気候に適した作目の導入を推進し、新産地づくりを支援する。

- 新産地づくりの支援
- 地域特産物の開発
- 農産物を使用した加工品の開発

- ③ いわきの農産物の販路拡大と地産地消の推進

いわきの農産物の販路拡大のために、各種イベント等においてPR活動を中心とした販売促進活動を実施し、「いわきブランド」の認知度を高める。

また、公共施設等において、いわきの農産物の利用促進を図り、地産地消を推進する。

- いわきの農産物のPR活動
- 販売促進活動の実施
- 公共施設等での地場農産物の利用促進
- 複合的直売所の設置検討

### (3) 農業情報化の推進と顔の見える農業の展開

いわき市農業情報センターHPの充実により、いわきの農業者や旬の農産物など顔の見える農業情報等を積極的に発信し、いわきの農業のPRを図るとともに、パソコン・インターネット講習会等を開催し、農業経営へのパソコン導入、情報化の推進を図る。

また、情報媒体を活用することにより、生産者と消費者の信頼関係を構築する。

#### ① 農業経営におけるIT活用の推進

パソコン・インターネット講習会等を開催するとともに、農業者自身が農家HPを開設し、顔の見える農業を実践するため、IT活用におけるサポート体制を整備する。

- 農家HP開設支援
- パソコン講座の開催

#### ② 情報媒体の活用による消費者との信頼関係の構築

「いわき市農業情報センターHP」並びに「いわきブランド農産物通信」を活用し、いわきの農業・農産物の情報発信を図り、生産者と消費者の信頼関係を構築する。

- POSシステムの活用
- 広報誌(ブランド通信)の充実
- 農業情報センターHPの充実

## (4) 交流型農業の推進と農村地域の活性化

農業体験や食農教育の推進により、農業・農村の持つ役割への理解を深め、市民の農業への多様な関わり方を増進することで、農業者と消費者との連携強化を図る。

また、農村地域の地域資源を活用し、グリーンツーリズム等による交流人口の増加を図り、農村地域の活性化を推進する。

### ① 生産者と消費者との連携強化

生産者と消費者との交流会を定期的を開催することにより、いわきの農業への理解を深める機会を提供し、いわきの農業をPRするとともに、消費者の意見を生産現場に反映させるなど、生産者と消費者の連携を強化する。

- 生産者、消費者の交流会開催
- 農業講演会の開催
- 安全、安心な農作物の啓発

### ② 交流による農村地域の活性化

景観作物の作付推進により、農村景観の保全・遊休農地の解消を図る。

また、農村の地域資源を活用し、魅力ある農村地域を形成するとともに、都市住民との交流の場として市民農園の再構築を図る。

- 市民農園・遊休農地の活用
- 農村景観の保全、景観作物の作付推進
- クラインガルテンの設置検討

### ③ 食農教育の充実

学校教育と連携を図り、教材等の提供を含めた農業体験を実施し、農業の持つ役割の重要性の認識を深めるとともに、地場農産物の学校給食での利用促進など、子供たちの食生活の改善等を図る。

また、地場農産物を使った料理教室を定期的を開催することにより、地産地消を推進する。

- 小中学校における食農教育の推進
- 農業体験の実施、充実
- 地場農産物を使った料理普及
- 庁内連携による食農の推進

## (5) 環境にやさしい農業の推進

安全な農産物の供給や農業の自然循環機能の維持増進のため、耕種農家と畜産農家の連携による有機質資源の循環を推進するとともに、エコファーマー等への支援強化や特別栽培・有機栽培の普及など、環境にやさしい農業を推進する。

### ① 耕種農家と畜産農家の連携による循環型農業システムの構築

耕畜連携会議等を通じて、耕種農家・畜産農家の連携による有機質資源の循環を推進し、循環型農業システムの構築を図る。

- 耕畜連携会議の開催
- 堆肥供給体制の整備
- 堆肥利用の推進

### ② 持続性の高い農業の推進

環境にやさしい農業を実践しているエコファーマーへの支援を強化するとともに、特別栽培・有機栽培の普及活動を展開することで、環境と生産性の調和に配慮した持続性の高い農業の推進を図る。

また、いわき農林事務所等と連携を図りながら、農薬の適正使用を推進する。

- エコファーマーへの支援強化
- 特別栽培、有機栽培の普及活動
- 農薬適正使用の推進

### ③ 農業用使用済プラスチックの適正処理

産業廃棄物としての農業用使用済プラスチック等の適正処理は大きな課題となっているため、個人負担の大きい処理等を軽減し、組織回収体制の整備や適正処理啓発運動を展開する。

- 組織回収体制の整備
- 適正処理啓発運動

### 3. 事業計画

#### (1) 補助事業

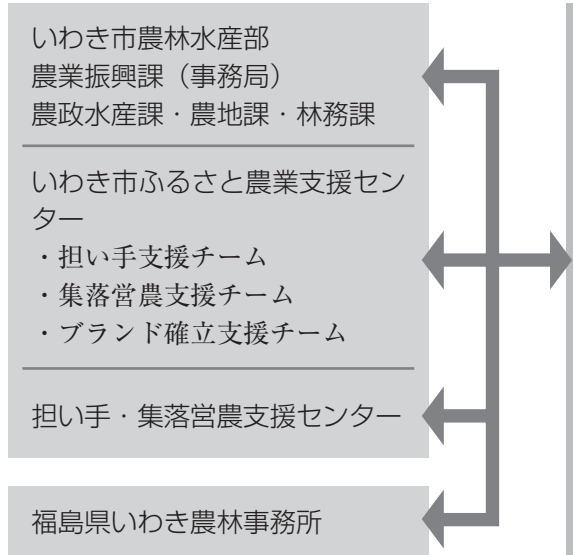
事業種目	事業内容	事業主体	備考
①第二期新農業生産振興プラン推進事業	<p>第二期新農業生産振興プラン推進のため、各事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推進協議会、各委員会の開催</li> <li>○広報誌の発行</li> <li>○農業講演会の開催</li> <li>○農業簿記講座、パソコン講習会の開催</li> <li>○生産者と消費者との交流会開催</li> <li>○農産物の消費拡大活動の実施</li> <li>○地産地消の推進</li> <li>○販売促進活動の実施</li> <li>○いわきブランド品の販売</li> </ul>	いわき市農業生産振興協議会	
②振興作目支援事業	<p>対象作目等の生産振興を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○優良種苗、新品種の導入</li> <li>○機械、設備等の導入</li> <li>○低コスト、省力化の推進等</li> </ul>	J A 生産組織	
③いきいき女性支援事業	<p>女性農業者研修会の開催による、能力向上や直売設備・加工用機材を導入し、女性農業者の環境づくりを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○直売所、加工所の機械設備等の導入</li> <li>○女性農業者研修会の開催</li> <li>○消費者との交流会開催</li> </ul>	J A 女性農業者グループ 生活研究グループ	
④環境にやさしい農業推進事業	<p>エコファーマーへの支援と有機・特別栽培等を含めた環境と調和した農業の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エコファーマーグッズへの支援</li> <li>○消費者へのPR活動</li> </ul>	J A 生産組織	

(2) 委託事業

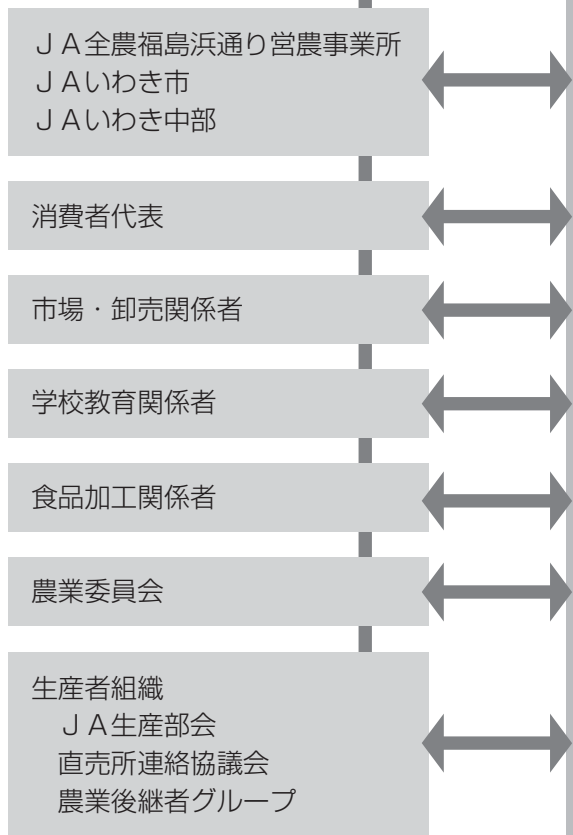
事業種目	事業内容
①農業情報化推進事業	農家HPの開設支援や農業経営へのパソコン活用を図るため、講習会を開催する。 ○いわき市農業情報センターHP運用 ○農家HP開設支援 ○ITサポート体制の整備
②食農教育普及事業	親子連れを対象とした農業体験教室を開催し、作物の播種から収穫までの一貫した農作業体験を実施するとともに、生産現場見学会や消費者との交流会を開催し、農業及び食料生産の重要性を認識させる。 ○農業体験教室の開催（わくわくアグリ教室）
③営農塾開設事業	チャレンジ農業者、援農ボランティア等、農業に興味ある市民が、農作物栽培の基礎を学び、新規就農への誘導を図る。 ○営農塾の開設 ○営農塾の運営
④いわきブランド品開発事業	いわきを代表する新たな農産物加工品の開発を行い、ブランド化を図る。 ○農産物加工品の開発 ○製品のPR活動等

## 4. 推進体制

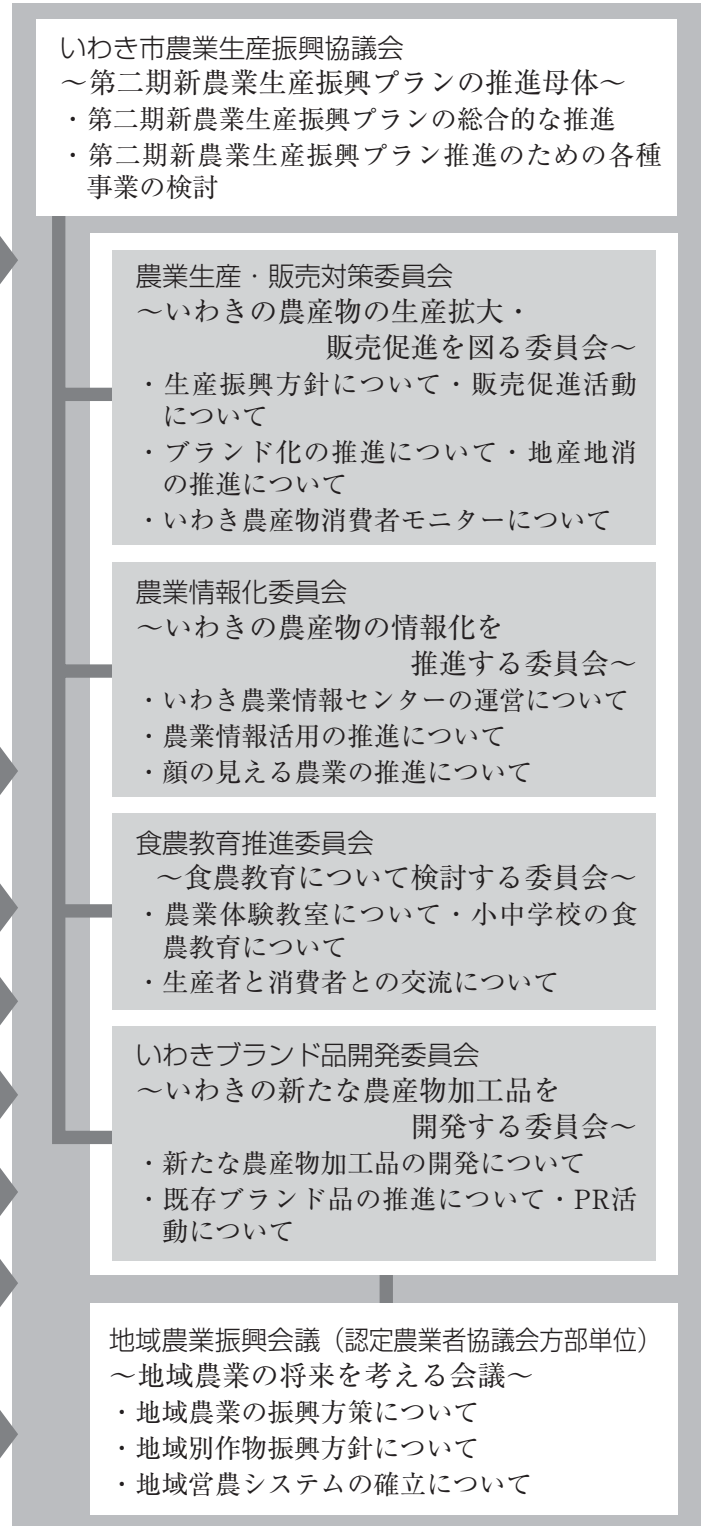
### 〈推進機関〉



### 〈関係組織〉



### 〈推進組織〉



## 5. 振興作目

### (1) ブランド化推進作目

- ①その地域において、農家経営の主要な作物として定着しているもの。
- ②生産の年次変化が比較的少なく、今後とも維持・拡大が図られるもの。
- ③積極的な施策展開により、共販体制を基本とした作付の推進、産地の体質改善や産地拡大を図るもの。

### (2) 生産拡大作目

- ①現在、その地域において、既に若干なりとも導入されていること。
- ②今後、積極的な施策を講じ、地域で生産拡大が見込まれる作目であること。

### (3) 新規作目

- ①新規または、現在、若干ではあるがすでに導入されている作目であること。
- ②地域に普及・定着を図り、地域特産物として地域農業・中山間地域の活性化等に寄与できる作目であること。

### (4) 地域継承作目

- ①古くから地域の主要な作物として、作付けが盛んであった作目であること。
- ②生産が縮小しているが、地域の伝統作目として、今後も次世代に継承していく必要がある作目。

### (5) その他の作目

(1)～(4)の振興作目以外で、必要に応じて振興する作目。

ブランド化推進作目	生産拡大作目	新規作目	地域継承作目
いちご ねぎ いんげん きゅうり トマト なし 菊 シクラメン とっくり芋 イチジク 水耕葉ネギ 水耕ミツバ	小松菜 チンゲンサイ ブロッコリー 自然薯 そば 大豆 菌茸類 ぎんなん	菜の花 ブルーベリー アスパラガス	葉たばこ こんにゃく

## 6. 数値目標

### (1) 担い手

項 目	区 分	単 位	H17基準①	H21中間	H24目標②	増減②÷①
認定農業者	認定農業者数	人	242	290	330	136%
新規就農者	新規就農者数	人／年	3	12	12	400%

### (2) 農業生産

項 目	区 分	単 位	H17基準①	H21中間	H24目標②	増減②÷①	
ブランド化推進作目	野 菜	きゅうり	h a	7.0	7.0	7.0	100%
		トマト	h a	9.0	9.1	9.2	102%
		いんげん	h a	8.3	8.3	8.3	100%
		いちご	h a	9.3	9.5	10.0	108%
		ねぎ	h a	36.0	36.0	36.0	100%
		とっくり芋	h a	1.4	1.4	1.4	100%
		水耕葉ネギ	h a	0.6	0.6	0.6	100%
		水耕ミツバ	h a	0.3	0.3	0.3	100%
	果 樹	なし	h a	79.0	79.0	79.0	100%
		イチジク	h a	9.0	9.5	10.0	111%
	花 き	菊	h a	5.5	5.5	5.5	100%
		シクラメン	h a	2.0	2.0	2.0	100%
生産拡大作物	野 菜	小松菜	h a	0.4	0.8	1.2	300%
		チンゲンサイ	h a	0.4	0.8	1.2	300%
		ブロッコリー	h a	25.0	30.0	35.0	140%
		自然薯	h a	1.4	2.0	3.0	214%
	穀 類	そば	h a	25.4	30.0	40.0	157%
		大豆	h a	32.0	35.0	40.0	125%
	菌茸類	菌茸類	t	43.0	86.0	129.0	300%
果 樹	ぎんなん	h a	6.8	10.0	15.0	221%	
新規作目	野 菜	菜の花	h a	0.2	1.0	1.5	750%
		アスパラガス	h a	0.2	1.0	1.5	750%
	果 樹	ブルーベリー	h a	0.2	1.0	1.5	750%
承地域目継	工芸農作物	葉たばこ	h a	10.6	10.6	10.6	100%
		こんにゃく	h a	1.0	1.0	1.0	100%
農業粗産出額 (H16年)	農業粗産出額総計		百万円	11,732	12,000	12,300	105%
	園芸作物		百万円	3,923	4,000	4,100	105%

※基準数値 野菜・果樹・花き：福島県園芸特産強化プログラム並びにJA生産部会等の実績  
 農 業 粗 産 出 額：第52次福島県農林水産統計年報

### (3) 環境にやさしい農業

項 目	区 分	単 位	H17基準①	H21中間	H24目標②	増減②÷①
エコファーマー	エコファーマー数	人	208	700	1,000	481%

### (4) 食料自給率

項 目	区 分	単 位	H17基準①	H21中間	H24目標②	増減②÷①
いわき市食料自給率 (H16年)	食料自給率	%	35.0	40.0	45.0	129%



## 参考資料（用語の解説）

### ○エコファーマー

堆肥等による土づくりと、化学肥料及び化学合成農薬の双方を、基準量より20%以上削減するという栽培方法の導入計画を作成し、県知事より認定を受けた農業者。

### ○援農ボランティア

担い手の高齢化や後継者不足などで農作業が困難となった農家を支援するため、農繁期等において農作業に参加するボランティアのこと。

### ○クラインガルテン

クラインガルテン (*Kleingarten*) はドイツ語で「小さな庭」。

クラインガルテンが一般の市民農園と異なるのは、ラウベ（簡易宿泊施設）が併設されていること。ラウベに滞在しながら自分の菜園づくりを楽しみ、地域住民とも交流できる滞在型市民農園。

### ○グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然・文化、農林漁業とのふれ合いや人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

### ○耕種農家

耕地等を利用して農作物を栽培する農家。

### ○食料・農業・農村基本計画

国家社会における食料・農業・農村の位置付けを明確にするとともに、新たな基本理念の下に講ずべき施策の基本方向を明らかにする法律として、農業基本法に代わって、平成11年7月に制定された国の計画。

### ○循環型農業システム

有効な資源を循環させるなど、環境への負荷を軽減した持続性の高い農業生産方式。

### ○特別栽培農産物

生産された地域の慣行レベル（各地域の慣行的に行われている化学合成農薬及び化学肥料の使用状況のこと）に比べて、化学合成農薬の使用回数が50%以下、かつ化学肥料の窒素成分量が50%以下で栽培された農産物。

## ○鳥インフルエンザ

A型インフルエンザウイルス感染による鳥類の疾病。

鳥インフルエンザのうち鶏等に高致死性の病原性を示すものを高病原性鳥インフルエンザと呼ぶ。

鶏等が感染すると、全身症状をおこし、神経症状、呼吸器症状、消化器症状等が現れ、大量に死亡することもまれではない。

## ○認定農業者

農業経営基盤強化促進法に基づき、経営改善を図ろうとする農業者が自ら農業経営改善計画を作成・申請し、[1]市町村の基本構想に照らして適切であり、[2]その計画の達成される見込みが確実で、[3]農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために適切である、との基準に適合する農業者として、市町村から認定を受けた者。

## ○農業生産法人

農地等の権利を取得できる法人のこと。

農地法では、農地等の権利を取得できる法人は、原則として、農業生産法人の要件を満たすものに限られている。

## ○BSE（牛海綿状脳症）

Bovine Spongiform Encephalopathyの略。異常プリオンたんぱく質（細胞たんぱく質の一種が異常化したもの）に汚染された飼料（BSE感染牛の脳等を含む肉骨粉等）の摂取により経口感染すると考えられている牛の疾病。

## ○POSシステム

商品の販売・支払いが行われるその場（point of sales）で、その販売データ（品名、数量、販売時刻など）を収集することで、販売動向を把握する仕組み。

## ○遊休農地

耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地。

## 第二期新農業生産振興プラン

平成19年4月発行

発行 いわき市農林水産部農業振興課



いわき市

---

創りたい ゆたかな明日、伝えたい 誇れるいわき。